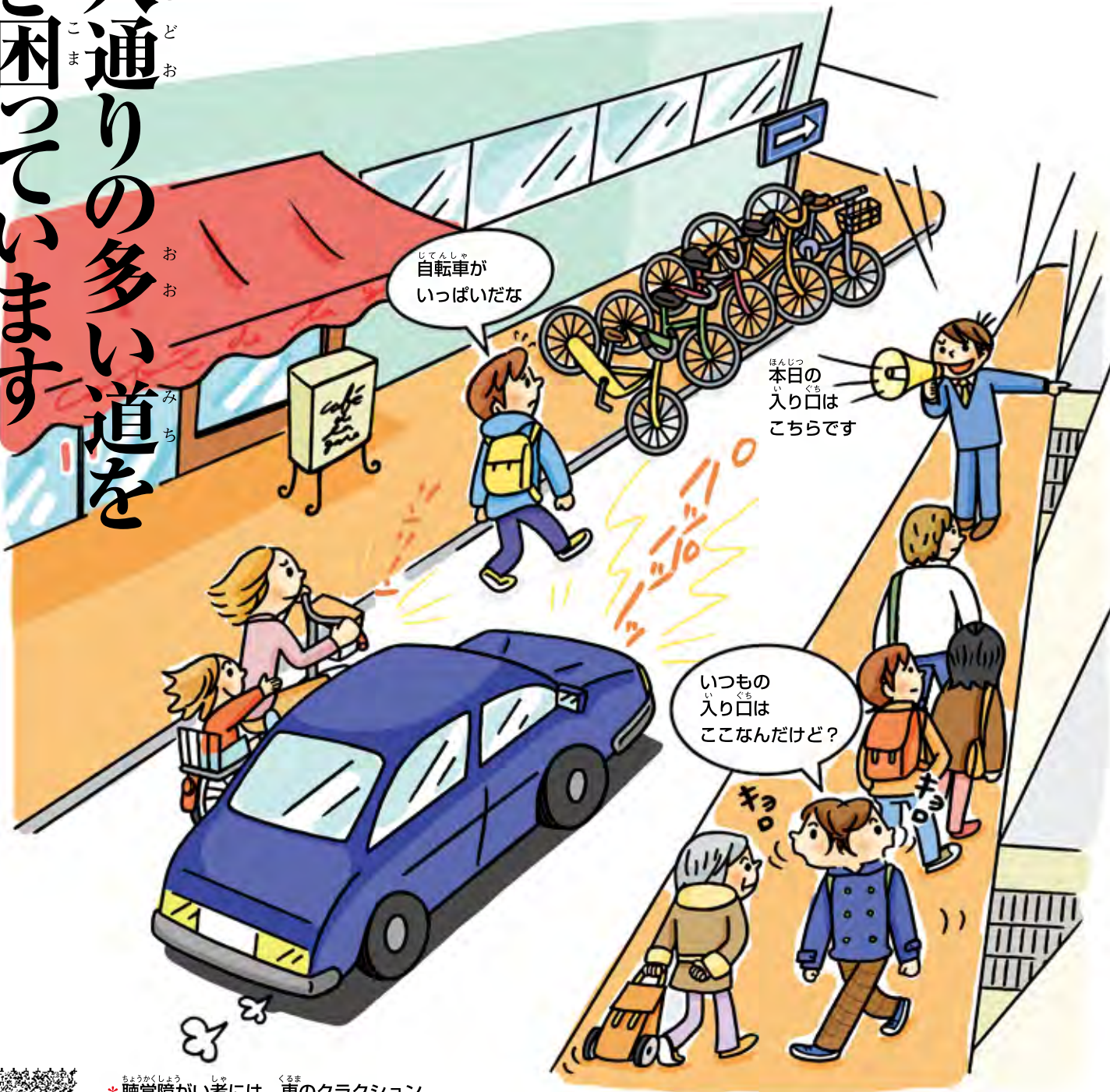


# たとえは人通りの多い道を 歩くとき困っています

聴覚障がい者は外見からはわかりにくいものです。音が聞こえないだけでなく、言いたいことを音声にして伝えることがむずかしい人もいます。また話したり、聞いたりが不便な人もいます。そのため、私たちがコミュニケーションのとり方の基本を習得することが大切です。話しかける時の基本(P3 参照)、効果的な筆談の方法 (P11 参照)、簡単な手話 (P21 参照)、などです。



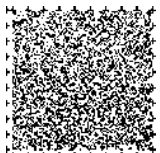
じてんしゃ  
自転車が  
いっぱいだな

ほんじつ  
本日の  
入り口は  
こちらです

いつもの  
入り口は  
ここなんだけど？

キョ

キョ



\*聴覚障がい者には、車のクラクション  
や自転車のベルが聞こえません。

# 私たちにできることもあります！！



●**自転車置き場に止める**  
 ある歩いている人に迷惑にならないように、自転車は決められた場所に置きましょう。

●**筆談で話しかけられる**  
 音声以外で道を聞かれても、あわてず、筆談にも対応しましょう。

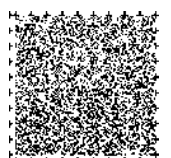
\***筆談の方法**  
 簡潔に、要点を整理して書く  
 とわかりやすいです。



●**筆談で対応する**  
 話を音声で伝えられない人もいます。筆談で対応することができますようにしましょう。



●**まわりの人に気配り**  
 優先席や混雑した車両では、ペースメーカー使用者者に配慮して、携帯電話の電源は切りましょう。



# 私<sup>わたし</sup>たちはまちの中で、 いっしょに暮<sup>く</sup>らしています

「外<sup>がい</sup>見<sup>けん</sup>では障<sup>しょう</sup>がいのあることがわからない人<sup>ひと</sup>」もいます。知<sup>ち</sup>的<sup>てき</sup>なことや精<sup>せい</sup>神<sup>しん</sup>面<sup>めん</sup>から配<sup>はい</sup>慮<sup>りょ</sup>の必要<sup>ひつよう</sup>な人<sup>ひと</sup>、認<sup>にん</sup>知<sup>ち</sup>症<sup>しょう</sup>の人<sup>ひと</sup>などです。また、「人<sup>ひと</sup>との関<sup>かん</sup>わりがスムーズにいかない人<sup>ひと</sup>」もいます。その場<sup>ばあい</sup>合<sup>あ</sup>いは、「おかし<sup>かし</sup>い人<sup>ひと</sup>、変<sup>へん</sup>な人<sup>ひと</sup>」と思<sup>おも</sup>わずに、見<sup>み</sup>守<sup>まも</sup>ってください。

● 困<sup>こま</sup>っていたり、そわそわ・きよろきよろしている様<sup>よう</sup>子<sup>す</sup>がある。ブツブツ言<sup>い</sup>っている。



● 何<sup>なに</sup>を言<sup>い</sup>っているのかわからないが、何<sup>なに</sup>かを伝<sup>つた</sup>えようとしている様<sup>よう</sup>子<sup>す</sup>で、店<sup>てんいん</sup>員<sup>たいおう</sup>が対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>に困<sup>こま</sup>っている。

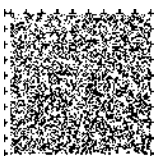


## 外<sup>がい</sup>見<sup>けん</sup>ではわからない障<sup>しょう</sup>がいのある人<sup>ひと</sup>を理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>しましょう



本<sup>ほん</sup>人<sup>にん</sup>から知<sup>し</sup>らない人<sup>ひと</sup>に話<sup>はな</sup>しかけたり、助<sup>たす</sup>けを求<sup>も</sup>めることができない場<sup>ばあい</sup>合<sup>あ</sup>いも多<sup>おほ</sup>いのです。

困<sup>こま</sup>った様<sup>よう</sup>子<sup>す</sup>の人<sup>ひと</sup>に出<sup>で</sup>会<sup>あ</sup>ったら、わ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>い<sup>い</sup>言<sup>こと</sup>ば<sup>ば</sup>で、「ど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>? (ど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>?)」とや<sup>や</sup>さ<sup>さ</sup>しく接<sup>せつ</sup>し、安<sup>あん</sup>心<sup>しん</sup>でき、リ<sup>リ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ク<sup>ク</sup>スして話<sup>はな</sup>せる雰<sup>ふん</sup>囲<sup>い</sup>気<sup>き</sup>をつ<sup>つく</sup>ってください。



# 知的なことなどで、配慮の必要な人

## 行動を理解してください

知的な発達について課題のある人は、自分の生活や行動を、社会や他の人に合わせていくのが難しいことがあります。あるものに特別なこだわりを持ったり、同じ行動をくり返したりする人もいます。その人に合ったコミュニケーションの方法を見つけ、社会生活を支援する手だてがあれば、様々なチャンスが広がる可能性があります。さりげなく、普通に見守ってください。



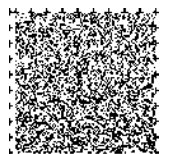
● 決まりごとを守ったり、相手に合わせたりすることが難しい人もいます。自分の思うままに行動するため、まわりの人に理解されにくいのです。例えば、こだわりの席にどうしても座りたいと求める人もいます。

## 私たちにできることもあります!!

- 人によって、行動やコミュニケーションの特性は様々ですから、そのことを理解しましょう。
- 成人の人を、子ども扱いはしないでください。
- 行動を決めていくのは本人です。本人の自主性・意思を尊重しましょう。
- 話すときは、「具体的に簡潔に」「わかりやすく」「ていねいに」「ゆっくりと」必要があれば「くり返し」話しましょう。
- 絵や図、メモなどを使って、相手の理解を確かめながら話すことも有効です。

## 受付での好ましい方法の例です

わかりやすく説明する方法は、わかりやすい言葉を使い、ゆっくり、はっきり、具体的に話すことです。



# 精神面から、人との関わりが難しく、 配慮の必要な人

## 行動を理解してください

人との関わりで配慮の必要な人は、不安を多く持っていたり、緊張したりすることが多く、社会生活や日常生活を送る上で様々な困難があります。細かいことにこだわる、身だしなみをうまく整えられない、人付き合いが苦手などの困難がある人もいます。また、薬の副作用で早く起きられない、疲れやすいという人もいます。まわりの人が理解をもって接することで、こうした困難を軽くできることがあります。適切な治療・薬、リハビリテーションや支援により、地域で安定した生活を送ることができるようになってきていることも理解し、応援してください。



● 色々考えてわからなくなってしまうこともあります。

## 私たちにできることもあります!!

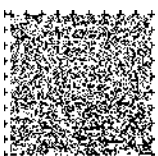
- ・ いろいろな人が暮らしていることを、私たちが理解し、慣れることです。
- ・ 「おはよう」「こんにちは」などのシンプルなあいさつが望ましいです。
- ・ 相談されたときには聞き役になり、自分の意見は極力抑えます。
- ・ 見守る態度が好ましいです。



● 人が話している姿を見て、自分が笑われているような気がする人もいます。



● 人混みが、とても怖いと感じる人もいます。



# こんな生活支援の道具やマークがあると安心して生活ができます

## コミュニケーション支援ボードの利用

コミュニケーションを支援する道具がいろいろ考案されています。



●例えばコンビニで



●例えば病院で



●例えばお店で

わかりやすい会話の基本は、やさしく、簡単な言葉でゆっくりと話しかけることです。また伝えたいことを、わかりやすく書くこともひとつの方法です。絵や図を使って、コミュニケーションする方法も考案されています。

\* 出典は裏表紙をご覧ください。



## さまざまな利用者への配慮が、マークになっています

国際シンボルマーク



すべての障がい者が利用できる建築物、施設を示すマークです

身体障がい者マーク



身体障がい者が運転する車に表示するマークです

耳マーク



聞こえが不自由なことを示すマークです

ハート・プラスマーク



「身体内部に障がいがある人」を示すマークです

AEDマーク



心臓がけいれんした時電気ショックを与え、正常に戻す医療機器を設置しているマークです

マタニティマーク



妊産婦がカバンなどに付けて周囲が配慮をしやすいマークです

オストメイトマーク



オストメイト用の設備を備えていることを示すマークです

視覚障がいのマーク



視覚障がい者に配慮した建物、設備などを示す国際シンボルマークです

ヘルプカード



障がい者等の援助を必要とする方が携帯し、必要な支援や配慮を周囲の人をお願いするためのカードです

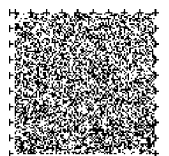
補助犬マーク



ベビーカーマーク



\* 主に身につけます  
P.7のイラスト参照



# 公共交通がバリアフリーになると、 多くの方がひとりで外出できます

最近では誰もが使いやすい交通施設の整備が進んできました。

JR 町田駅前のデッキにも、公共のエレベーターとエスカレーターが整備されて、だれでも移動しやすくなりました。



## ●エスカレーターでの配慮

右側をあける習慣や走って使う人もいますが、右手で体を支える人や幼児と並んで使う人、高齢者は危険を感じる場合があります。

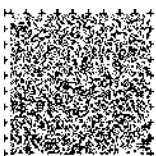
「やまゆり号」が2007年の春から新しくなり、共同配車センター事業として民間事業者が運行しています。車いすのまま乗れる車両を使った移動サービスを行っています。

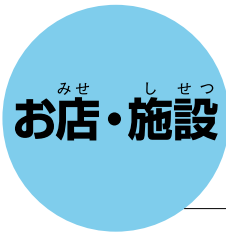


エレベーターやベンチなど駅のバリアフリー整備も進んでいます。



多様なニーズに対応した「車椅子利用者対応トイレ」の整備も進んでいます。





# こんな整備や手助けがあると、 ひとりでも安心です

バリアフリー整備ができていいる店でも、手助けが必要な人もいます。

くるま しいす しょうしゃ の かい  
もの 物では、高い位置に  
ある品物を取る手助  
けが必要です。



もうどうけん しょうしゃ の かい もの 物では、売場  
の案内や品物を手にとって確認  
してもらうなどの手助けが必要です。



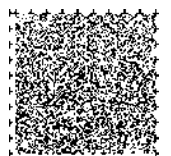
レストラン「喫茶社舞人」では、障がい  
のある人が一緒に働いています。



市役所の中に、授乳室があります。



市役所の中に、AED が設置されてい  
ます。AED は心臓がけいれんし、血  
液を流す機能を失った状態のときに、  
電気ショックを与えて、正常な機能に  
戻すための医療機器です。





視覚情報  
音声情報

# こんな整備が進めば、 ひとりでも安心です

重要な情報は音声だけでなく、文字や視覚情報（電光表示など）で伝えます。携帯電話によるメール（文字情報）、音声読み上げ機能などの利用も増えています。



●手話通訳と同時通訳  
の字幕表示

手話通訳に加え、現在は発言内容をフィルムに書いて、OHPで投影する方法が採用されています。最近パソコンに発言内容を入力して、スクリーンに投影する方法もあります。



●文字情報（電光表示）  
と音声情報の併用

緊急時の情報も、音声情報とともに文字情報でも案内します。



●文字と手話の表示

テレビの放送内容も、文字だけでなく手話も併用するとよりわかりやすいです。



●視覚で伝達する設備

ホテルの客室では、ノックやインターホンと照明の点滅を連動させる方法もあります。



●手話や筆談での窓口対応

聴覚障がい者は、手話ができる人がいるととても安心できます。手話ができない人がいない場合は筆談で対応します。



●音声案内設備

施設の名前や現在の場所を音声で案内すると正確にわかります。

